

平成 30 年度 第 2 回 安曇野暮らし支援協議会 会議概要

1	<u>審議会名</u> 平成 30 年度 第 2 回 安曇野暮らし支援協議会
2	<u>日 時</u> 平成 31 年 3 月 25 日 (月) 午前 9 時 00 分から午前 10 時 15 分まで
3	<u>場 所</u> 安曇野市本庁舎 4 階 会議室 403
4	<u>出席者</u> 中澤 美穂委員、北林 大委員、堀井 三郎委員、高井 健慈委員、 二村 恵委員、望月 彰委員、横田 耕太郎委員 <u>事務局</u> 高嶋政策経営課長、児林課長補佐、藤原主査、地域おこし協力隊高尾
5	<u>公開・非公開の別</u> 公開
6	<u>会議録作成年月日</u> 平成 31 年 3 月 26 日

協議事項等

次 第

- 1 開 会
- 2 あいさつ
- 3 報告事項  
(1) 平成 30 年度市の移住定住施策の事業報告について  
(2) その他
- 4 協議事項  
(1) 平成 31 年市の移住定住施策の事業案について  
(2) その他
- 5 閉 会

会 議 概 要

3 報 告 事 項

- (1) 平成 30 年度の移住定住施策の事業報告について

質疑なし

- (2) その他

公益社団法人全日本不動産協会長野県本部(以下、全日)に、平成 31 年度より安曇野暮らし支援協議会へ参画し、移住定住関連事業に積極的に関わっていくかどうかの意思確認を行い、積極的に参画してゆきたいとの回答があった。協議会の設置要綱を改正し、来年度から全日の委員 1 名を加えた体制とした。全日の委員については、新年度の総会で他団体の新しい委員の紹介と併行し紹介する。

4 協 議 事 項

- (1) 平成 31 年度の市の移住定住施策の事業案について

平成 31 年度の事業案を事務局より説明。

## 《移住セミナー》

●市主催セミナーは、東京で春と秋の2回開催したい。春は東京都武蔵野市、秋は有楽町のふるさと回帰支援センターでの開催を検討したい。

●県主催セミナーは、例年名古屋で開催されるセミナーに1回参加していたが、平成31年度は名古屋に加えて大阪で開催されるセミナーにも1回参加したい。

●松本市、塩尻市との三市合同移住セミナーは、来年度は当市がとりまとめの担当となる。

## 《現地体験会》

●平成31年度も夏と冬の2回開催する。平成30年度は冬の安曇野体験会を旅行商品として開催したが、平成31年度は夏の安曇野体験会についても旅行商品として開催したい。

・冬の体験会の料金が安いという声が多かったが、参加者の金銭的負担を軽減するための補助などを市で行う予定はあるか(委員)

⇒補助を行う予定はない(事務局)

・冬の体験会は子ども料金の設定がなく、子育て世代が参加しにくかったと感じている。子ども料金の設定も含めて、参加しやすい料金設定に努めてもらいたい。(会長)

・バスの運行代金を子どもからは徴収しないことや、農家民泊の活用などを検討し、参加者の料金負担の軽減や体験内容の充実を図れるとよい。(委員)

・農家民泊での宿泊体験が、中古住宅に住むことを想定した体験にもつながるとよい。(会長)

・それぞれの体験会で、移住者の事例を紹介することは大事だが、実際の生活環境を知ってもらうことを骨子として開催していくとよいのではと思う。(委員)

⇒農家民泊の活用を検討するならば、半日程度受け入れ側の市民の方々と一緒に買い物をする、生活の仕方について直接相談するといった、市民を巻き込んだ移住生活の体験会につながるのではと思う。今後の協議会の中で委員の皆さんから意見を頂戴しながら企画を進めたい。(事務局)

## 《空き家バンク》

●安曇野市空家等対策計画により、平成31年度から所有者への所有物件の意向調査が行われる。その際に所有者に対し空き家バンクを紹介し、物件数の充実を図りたい。また、建築士会に協力いただき空き家バンク仲介事業者を対象とした勉強会を開催する。

・市内には約1000件の空き家があるとの報告があったが、この状態で意向調査を行うと、所有者からの相談が集中してしまい、市で処理しきれなくなる事が想定される。現在の空き家バンクの体制では、業者をどう選択するかなどが不明瞭で、空き家バンクを紹介しても所有者が困ってしまう。相談者が空き家バンクを利用し、よりよい利活用ができるような体制を来年度早急に整えなくてはならない。(委員)

⇒今ある空家の所有者のうち、どれだけの人が売りたい、貸したいと考えているかがまだわからない状況である。また売りたい、貸したいと考えている所有者の中にも、空き家バンク仲介事業者ではない不動産業者に頼みたいと考えている人がいる事も想定される。

今回の意向調査では、利用者に対してアンケートを取り、空家の利活用の際に「安曇野市空き家バンクを利用したいかどうか」をまずは伺いたいと考えている。また、利活用するとして物件を売りたいのか貸したいのか、あるいは更地にして売りたいのかといった、所有者の具体的な意思も併せて確認したいと考えている。(事務局)

・現在の空き家バンクの登録物件数が、実際の空家の件数に対してひじょうに少なく感じる。空家対策は難しい課題であるので、実際に物件(空家やこれから空家になるであろう物件)を所有し活用に悩んでいる方々に対して、市の環境部局とも連携しながら相談体制を整える必要もある。(会長)

⇒環境課で開催している相談会を充実させる方がよいのか、あるいは協議会で新たに相談会を開催した方がよいのか、いちど整理する必要があると思う。空家相談の入り口としては既存の空き家相談会が機能していると思う。(事務局)

・建築士会は環境課と連携して隔月で1回空き家相談会を開催しているが、利活用に関わる相談が多い。しかし空き家バンクを紹介しても仲介事業者のリストを渡すだけで、仲介事業者の詳しい情報をほとんど出せず、なかなかその先につながらない。業者によってそれぞれ特徴があるので、もっと仲介事業者をわかりやすく紹介できればよいと思う。(委員)

⇒市側にも「リストにあるどの業者がよいか」と問い合わせがよくある。各仲介事業者にセールスポイントをそれぞれ考えていただき、それらを現在配布している一覧に組み込むことなどができると思う。またホームページについても見づらい箇所があるところのご指摘があったので、改善するタイミングで仲介事業者のセールスポイントも組み込んで紹介できるようにしたい。(事務局)

・所有者が業者を選びやすい仕組みを作ることは大事だと思うが、体制を整えてもなおどの業者を選ぶべきか迷う方は少なからずいる。賃貸物件を扱えるなど分類がわかるようにするとよいと思う。また、選択に迷っている相談者に対し円滑に業者を紹介できるように、事前に仲介事業者に了解を取り、予め決めた順に業者を紹介していくような仕組みを設けてもよいと思う。(委員)

⇒市内の空家を解消していくために空き家バンクは設置されており、仲介事業者の皆さんには地域貢献という側面から、利用者が相談しやすい体制づくりに今後ご協力いただきたいと考えているので、調整を図っていきたい。(事務局)

・仲介事業者対象の勉強会などの機会に、空き家の利活用に困っている市民を助けるために、これからもご協力いただきたいと仲介事業者にお願いしたい。(会長)

## 《おためし住宅》

●引き続き受け入れを行い、より有意義に利用いただけるようオプションの設定を検討したい。

### (2)その他

●現在の要綱では、協議会は事業主体ではなく「各団体がそれぞれで行っている移住施策に対して、調整を図る場」となっている。現在市の移住施策が協議会の主な事業となっているが、各団体の移住関連の事業を持ち寄っていただき、調整を図って協力していくことができると思う。

もし、安曇野暮らし支援協議会主催で何か事業をやりたいとなると、各団体で負担金を出し合って、会自体に主体性を持たせる必要がある。来年度は安曇野暮らし支援協議会そのもののあり方を、委員の皆さんと一緒に考えて、次の任期満了時を目標に方向性を決めたい。(事務局)

以上